

## I O D P 部 会 ・ 陸 上 掘 削 部 会 執 行 部 会 連 絡 協 議 会 議 事 録 ( 案 )

日 時 : 2 0 0 9 年 1 1 月 1 2 日 ( 木 ) 1 3 : 0 0 ~ 1 5 : 0 0

場 所 : 文 部 科 学 省 3 F 2 特 別 会 議 室

### 出 席 者 ( 敬 称 略 )

~ I O D P 部 会 ~

部 会 長 : 山 崎 俊 嗣 ( 産 業 技 術 総 合 研 究 所 )

委 員 : 芦 寿 一 郎 ( 東 京 大 学 ) 安 間 了 ( 筑 波 大 学 ) 池 原 実 ( 高 知 大 学 海 洋 コ ア 総 合 研 究 セ ン タ ー )

沖 野 郷 子 ( 東 京 大 学 ) 坂 本 竜 彦 ( 海 洋 研 究 開 発 機 構 ) 末 次 大 輔 ( 海 洋 研 究 開 発 機 構 )

平 野 直 人 ( 東 北 大 学 ) 松 本 剛 ( 琉 球 大 学 ) 森 田 澄 人 ( 産 業 技 術 総 合 研 究 所 )

山 本 啓 之 ( 海 洋 研 究 開 発 機 構 ) 山 本 正 伸 ( 北 海 道 大 学 )

~ 陸 上 掘 削 部 会 ~

部 会 長 : 佐 藤 比 呂 志 ( 東 京 大 学 地 震 研 究 所 )

委 員 : 浦 辺 徹 郎 ( 東 京 大 学 ) 小 村 健 太 朗 ( 防 災 科 学 技 術 研 究 所 ) 佐 野 修 ( 東 京 大 学 地 震 研 究 所 )

藤 井 直 之 ( 静 岡 大 学 ) 林 為 人 ( 海 洋 研 究 開 発 機 構 )

文 部 科 学 省 海 洋 地 球 課 : 柴 田 晋 吾

海 洋 研 究 開 発 機 構 : 倉 本 真 一 阿 波 根 直 一 伊 藤 久 男

事 務 局 : 松 永 稔 藤 原 彰 子 加 賀 谷 一 茶 梅 津 慶 太

### 欠 席 者 ( 敬 称 略 )

~ I O D P 部 会 ~

委 員 : 高 澤 栄 一 ( 新 潟 大 学 ) 林 広 樹 ( 島 根 大 学 )

~ 陸 上 掘 削 部 会 ~

委 員 : 池 田 隆 司 ( 北 海 道 大 学 ) 井 龍 康 文 ( 名 古 屋 大 学 ) 木 村 克 己 ( 産 業 技 術 総 合 研 究 所 )

田 中 秀 実 ( 東 京 大 学 ) 中 田 節 也 ( 東 京 大 学 地 震 研 究 所 )

星 住 英 夫 ( 産 業 技 術 総 合 研 究 所 ) 宮 石 修 ( 日 鉱 探 開 株 式 会 社 )

宮 武 修 一 ( 石 油 天 然 ガ ス ・ 金 属 鉱 物 資 源 機 構 )

### 議 事 次 第

1. J-DESC の 運 営 に つ い て ..... 資 料 ㊦ 1-1, ㊦ 1-2, ㊦ 2-1,  
㊦ 2-2, ㊦ 3-1, ㊦ 3-2, ㊦ 4
2. J-DESC の 年 会 費 に つ い て ..... 資 料 ㊦ 1-3, ㊦ 1-4

## IODP 部会・陸上掘削部会執行部連絡協議会 議事録(案)

はじめに両部会の委員より自己紹介がなされた後、山崎 IODP 部会長より AESTO の解散に伴い、来年度からの J-DESC 運営をどのようにしていくべきかを決めなければならないとの説明がなされた。

- ・ 来年度 3 月 31 日をもって AESTO が解散する。
- ・ AESTO の解散に伴い、これまで AESTO が行ってきた IODP/ICDP 国内推進業務を CDEX で行いたいとの申し入れが CDEX よりあった。
- ・ IODP 部会としては、JAMSTEC/CDEX に事務局機能を置くほかにすべはないであろうとの認識がある。
- ・ 一方で、IODP の問題として、CDEX が「ちきゅう」の運航を行う IO (実施機関) であるため、IO と PMO としての機能の間でコンフリクトが生じるのではないかという懸念がある。
- ・ 懸念を招かないような仕組みを作ることが重要である。

資料合 2-2 に基づき、佐藤陸上部会長より、陸上掘削部会としてのスタンスについての概要の説明がなされた。

- ・ 陸上部会としては、IODP 部会のようなコンフリクトはない。
- ・ 基本的な方針は IODP 部会とそれほど相違はない。
- ・ 事務支援の内容に関して文書として記述されることが望ましい。
- ・ 規約の改正を行うために IODP と陸上掘削両部会の合同 WG を設置し、改正案を作り総会に提案 (共同提案) するという段取りが良いだろう。
- ・ IODP でのコンフリクトの問題は大きいのではないかと考える。

資料合 4 に基づき、CDEX 阿波根氏より来年度以降の IODP/ICDP 国内科学計画の総合推進業務に関する提案 (CDEX) について説明がなされた。

- ・ CDEX 内部に IODP/ICDP 推進業務の担当部署と「ちきゅう」運用・科学サービスの担当部署を明確に区分する。
- ・ J-DESC が委員の推薦を行い、JAMSTEC 理事長が委嘱を行う 7 名程度の委員から構成される新委員会を立ち上げる (委員会は JAMSTEC 本体組織の中に設置)。7 名のうち、3 名は役職指定 (IODP 部会部会長、部会長補佐、陸上掘削部会部会長)、その他 4 名は J-DESC 執行部以外から推薦される。
- ・ 新委員会は IODP、陸上掘削両部会を統括する。
- ・ PMO 機能 (乗船研究者や国際委員の推薦、IO との連絡など) については支援可能であるものの、J-DESC 独自の活動 (会費の徴収などその他) については業務を行うことができない。イベントなどで JAMSTEC が共催しているものについては可能。
- ・ 特に、これまで ICDP 国内実施委員会が担っていた役割のうち、SAG 委員の推薦などのいくつかのものは陸上掘削部会執行部で行っていただくことになる。
- ・ CDEX 内での担当部署の規模としては 6~7 名を想定している。

以下、主なコメント・質疑応答

山崎: CDEX 以外でのこの業務の受け入れ部署候補であったところは、JAMSTEC 直下にある支援部。支援部であれば、IO とのコンフリクトは軽減されるものの、IODP や ICDP は一つのプログラムにしか過ぎない扱いとなってしまうため、これまで通り手厚い支援が受けられなくなる可能性がある。また、IO とのコンフリクトについて、MI の末廣代表に国際的な感覚についてヒヤリングを行ったところ、かつてほどコンフリクトに厳しい目はなくなってきている。J-DESC の意思決定が独自でできる体制が一番重要であろうとの回答であった。

浦辺: 研究者コミュニティを CDEX が直接的に支援することについて、その経緯と理由を明確な文書として残しておいてほしい。そうすることで今後、JAMSTEC がなぜ研究者コミュニティを支援する必要があるのかという疑問が出てきたときに対応可能である。

山本(啓): 予算執行の裁量権を CDEX が持つのか?

倉本: 決裁などの手続きは JAMSTEC 内で行う必要がある。年間計画に記載されている項目に関しては執行部の意思決定が尊重されるが、新たな支援に関しては執行部で案を作ってもらい、新委員会で審議される。

山本(啓): 決裁などの手順は?

阿波根: 庶務関係も新しい担当部署内に作ることになる。

倉本: 金額によって決裁の権限は変わってくる。これは変えようがない。実質的には見えないようにやっていくつもりである。

林: 新しい部署のメンバーはこの業務専任か?

倉本: 実務者は専任。

坂本:J-DESC のコアスクールなど、独自事業に関しては完全にサポートされなくなるのか？

阿波根:共催などの形で JAMSTEC が入るのであれば、支援することが可能。

陸上掘削部会について

佐藤:ICDP に関して、どのような項目をサポートできるのかについてお品書きのようなものがあればよい。

阿波根:どこまでサポートできるのかを示すことはできるが、覚書などしっかりとした文書を交わすのは難しい。

佐藤:概要として、「これくらいのことは業務としてカバーできる」などが書いてある文書でよいので作成してほしい。

倉本:AESTO との契約では割とざっくり書いてある。現在、それよりも細かい項目について洗い出しを行っている。

新年度前にそれを新委員会で審議する予定。

佐藤:CDEX 案のような構造があれば、後々に修正ができるため、ある程度安心はできる。

浦辺:今後は、CDEX に対して第 3 者からの指示に対してどの程度答えられるかの基準になるようなものがあればよい。

倉本:形の上では、その役割と担うのが新委員会と考えている。

山崎:新委員会が IODP、陸上どちらも含んでいることを考えれば、資料 2-2 の 1 にある理念とマッチするところであり、今後ますます関係の強化ができればよい。

佐藤:今後、会費の問題などより詳細な事柄などについて検討するための委員会(合同対策委員会)を立ち上げることを提案する。

山崎:その必要があると考える。

浦辺:規約の改正が必要であり、会員総会に諮る必要がある。来年 4 月では遅い。臨時総会を開催するべきである。

**IODP 部会から 3 名(山崎部会長、山本(啓)委員、安間部会長補佐)、陸上掘削部会から 2 名(佐藤部会長、浦辺委員)、CDEX からの 1 名で構成される委員会を立ち上げることが合意された。**

1. J-DESC の運営について.....資料合 1-1, 合 1-2, 合 2-1,  
合 2-2, 合 3-1, 合 3-2, 合 4

資料合 3-1, 3-2 に基づき、山崎部会長より説明がなされた。

- ・ 会計業務を外部に委託することについては両部会で合意がなされている。
- ・ 学会支援機構などが候補としてあげられるが、他にもいくつかある。複数の業者を調べる必要がある。新しい口座へのお金の受け渡しは年度内に完了している必要がある。
- ・ 今後の会費の取り扱いについて、AESTO の協力の下調査を開始する。

2. J-DESC の年会費について.....資料合 1-3, 合 1-4

標記の件について資料合 1-4 に基づき、山崎部会長より説明がなされた。

- ・ J-DESC 会費の余剰金が膨れ上がっていることから、年会費の引き下げに関して検討するべきとの声がある。
- ・ 近年繰越金が増えている理由の一つとして会員の増加がある。
- ・ 事務局体制が変わり、不確定要素があるため来年度の会費は下げず、来年度状況をも極めつつ再び検討を行うことが合意された。
- ・ 数年に 1 度のイベントを開催することなどで、まとまった会費の使用を検討することが合意された。